

令和2年度 保育園の自己評価について



名張市の公立保育所民営化を受けて、当法人が保育事業の運営を開始し11年が経過しました。

この歳月の積み重ねが、子どもたちにとって確かなものであったのかを振り返り、今後に向けて思索を巡らせる、重要な岐路に立っていると認識をしています。

新型コロナウイルス感染拡大の思いがけない長期化は、保育現場においても多くの制約を受けることになりました。しかし、子どもたちには、かけがえのない大切な育ちの日々であることを肝に銘じ、自己評価を活かしてより良い保育の提供のために努力を重ねてまいります。

《 西田原保育園 》

当園の理念『みんなの笑顔があふれ みんなで認め合い 望ましい未来を創りだす力や心を育てます』のもと、人とのかかわりを大切に、元気で心豊かな子どもを育てる取り組みを進めてきました。

今年度一年間は、新型コロナウイルスの感染拡大により、交流の持ち方・行事の進め方等、難しさを感じつつも、子どもにとっては大切な一年であるとの思いから話し合いを重ね、できることを見いだしながら保育をしてきました。それぞれの立場からこの一年を振り返り、自らを見直すことで課題も見え、さらなる質の向上につなげていけるよう、自己評価をしました。

今後も、子どもたちが笑顔で楽しく、自ら遊びを見つけ、十分遊び込める保育を実践し、保護者の皆様、地域の皆様との交流を深め、風通しのよい保育園づくりをしていきます。



- ◆ 求められる保育士
- ◆ 子ども理解と保育実践
- ◆ 保護者へのかかわり
- ◆ 園運営における組織づくり

という4つの視点から、それぞれの経験年数を踏まえ自己評価をしました。

自己評価のまとめは、つぎのとおりです。

【求められる保育士】

- ・社会人としてのマナーや職務規定・職場のルールを守り、自己管理に努めることができた。
- ・「子どもの最善の利益」を尊重し、子どもが幸せを感じることができるよう努めた。
- ・安心・安全な保育、特にコロナ禍のなかにあり、職員一同で感染対策を行いながら、何ができるか意見を出し合い保育をしてきた。
- ・自分の知識や経験を活かしながら、積極的な保育展開を行ってきた。

～今後の課題～

- ・専門的知識をスキルアップし、自らの保育の幅を広げていけるようにする。
- ・「子どもの最善の利益」となるよう、私たち保育士はより良き人的環境になることを意識し、子どもと関わっていく。

【子ども理解と保育実践】

- ・子どもの気持ちをいちばんに考え、子どもに寄り添うことを大切にしました。
- ・一人ひとりの発達や行動の特徴を理解し、子どもの気持ちや訴えようとしていることを読み取って関わった。
- ・保育計画は、子どもの主体性を大切にされた保育を心がけられるように作成した。
- ・食育をはじめとし、保育計画の実践にあたっては、小学校への接続を視野に入れて取り組んだ。

～今後の課題～

- ・コロナ禍のなかにあり、今年度は日常の保育や行事等が十分できなかったが、新たな視点で工夫をして取り組めるよう、職員間で話し合いを深め、実践につなげるようにする。
- ・子ども自身が遊びを見つけて遊びこめるよう、子どもの気持ちを理解し、遊びの環境を整えていく。

【保護者へのかかわり】

- ・子どもの日々の様子として成長したことや課題を伝え、家庭との連携に努めた。
- ・謙虚な気持ちで保護者と接し、話をよく聴くようにした。
- ・成長を喜び合うと共に保護者の相談に応じるなど、信頼関係が築けるように対応した。
- ・保護者の就学前の不安や心配ごとに寄り添い、保育活動の様子を伝えていくことで、話し合えるきっかけとなった。

～今後の課題～

- ・担任や担当以外の職員も保護者とのコミュニケーションをしっかりとれるよう心がけ、適切な助言ができるようにする。
- ・伝達・報告等、職員間の連携をしっかりと行い、保護者が不安にならないよう対応する。

【園運営における組織づくり】

- ・クラスでは日々の報告・相談・連絡を密にし、保育士同士が思いを共有しながら保育してきた。
- ・自分の役割を認識し、他の職員としっかりコミュニケーションが取れるようになってきた。
- ・わからないことは、リーダーや副主任・園長に尋ね、連携をとるようにした。

～今後の課題～

- ・園の取り組み等、それぞれが自分の考えや意見を積極的に言えるようにする。
- ・地域への発信・交流が十分できるよう、発信の仕方を工夫し、園の取り組みを伝えられるようにする。

≪ 桔梗が丘保育園 ≫

当法人の経営理念『明るく、清潔な施設・温かく、思いやりのある施設・家族、地域に開かれた施設・安心、安全で堅実な施設』のもとに、当園も社会的役割を担っており、保育に関わる情報を発信していくことも、大切な役割です。

日頃より、大切な子どもたちを保育するなかで、職員一人ひとり、また、保育園全体の質の向上を図ることが大切です。特に今年度はコロナ禍にあり、「保育園としての役割」を改めて考えながら、自分たちの保育を見つめ直すために自己評価を実施しました。

この結果を踏まえ、今後も子どもたちの笑顔、人の輪、心の和を大切に園づくりに努めていきます。また、保護者や地域の皆様との交流を深め、風通しのよい保育園づくりをめざします。

自己評価のまとめは、つぎのとおりです。



【本園の保育理念】

みんなで創ろう つながろう 人の輪 心の和 子どもの笑顔がみたいから

【保育方針】

愛される喜びと安心を感じられる 優しく温かい保育

「遊んで育つ」発達援助と健康的な身体づくりに努め、心も体も健やかに育む豊かな保育

人とかかわりの中で学び合い 共に育ち合える保育

【主な取り組み目標】

- ・遊んで育つ環境づくり
- ・安心安全な保育環境の強化
- ・子どもの成長を共感し合う保護者との信頼関係及び専門性を活かした支援
- ・地域交流、地域貢献活動の充実
- ・新しい生活様式の中での保育園の役割、保育の見直し

【評価項目と取り組み状況】

子ども理解と保育実践

*遊びの環境の充実

運動遊びの工夫、環境の充実

- ・戸外遊びや散歩を多く取り入れ、十分身体を動かして遊べる機会を確保し、身体を動かすことの意欲や楽しみを引き出すように努めた。
- ・子どもの発達に応じた運動遊びを工夫した。成長発達の著しい乳児期の運動遊びの重要性を踏まえ、乳児園庭を整備し運動遊具を設置した。

絵本の環境の見直し

- ・絵本環境について学び合い、季節や子どもの興味、関心に応じた読み聞かせ等、絵本に触れる時間を多く持った。
- ・「子どもが喜ぶ絵本や子どもの成長にふさわしい絵本」について、職員間で意見交換しながら図書内容の充実と増冊を図り、行事、食育に関するものや子どもに人気のある絵本などを園だよりで保護者に紹介した。

*安心、安全な保育環境

新型コロナウイルス感染対策の徹底

- ・健康状態チェックカードを作成し、保護者と職員が連携して、子どもの健康管理に努めた。
- ・保育室、備品、玩具等の消毒や換気の徹底と三密を避けた保育形態へ移行した。
- ・刻々と変化する感染情報を整理して臨機応変に対応するとともに、保護者への丁寧な説明を心がけ感染対策への協力を得ることができた。

安全点検、衛生管理の徹底

実態に合った安全点検表、衛生管理表を作成し、毎日点検してチェックすることで全職員が安全な保育に対する共通認識をもって環境を整えることができた。

防災環境の見直し

職員・園児への防災教育の強化や防災用品を備えての様々な避難訓練を実施し評価した。

保育を通して、乳児期から自らを守る意識が芽生えるよう、子どもたちの防災意識の醸成に努めた。

保護者・地域へのかかわり

***保護者へのかかわり**

保育の見える化

感染防止対策を優先し、参加型保育参観や保護者間交流を目的とする行事を見直した。子どもの様子は、記録写真の保育室前への掲示等により伝えた。また、幼児クラスは行事の実施規模を縮小し、乳児クラスは参観にかえて動画により保育の様子を伝えた。

保護者意見の傾聴

コロナ禍が長期化するなかで、生活様式の変化に伴う心配ごとや子育ての悩み、不安などについて安心して相談できる園の雰囲気づくりに職員一人ひとりが心がけた。

***地域交流、地域貢献活動**

「人とかかわる力」を育む

積極的に進めてきた地域交流も、感染防止のために中止せざるを得なくなった。従来の訪問形式に換えての交流方法を講じられなかったことは反省点である。

小学校との連携

小学校との連携は、感染対策のため訪問交流はできなかったが、接続カリキュラムにより学校側と検討を繰り返し、手紙や動画を活用して就学に向けての不安解消や期待感が持てるような交流ができた。

一時預かり、なかよし広場（地域の子育て支援）等

利用者に感染防止対策の徹底を伝え、地域の子育て支援や福祉関係人材育成（保育実習生、看護実習の受け入れ）などは途切れないように取り組んだ。

保育の質の向上・組織づくり

***保育の質の向上**

職員間での学び合う姿勢

- ・ 幼児期の神経系の発達、運動神経について体育講師から専門的アドバイスを受け、「体育教室」を活用して保育に取り入れた。
- ・ 子どもの感情や感性、想像力、コミュニケーション力、語彙力などを育む絵本を通した保育について、職員間で研鑽の機会を多く持った。

職員間の連携

保育士、看護師の連携により、体調面や身体発達で気になることに対応できる体制を充実した。

「気づき」の目を養い語り合う

適時にヒヤリハットを報告・共通理解し、危険箇所の気づきや環境改善により事故等の未然防止につながられた。また、保育士が安全を意識し、必要な援助や声かけをすることで、子どもが自ら気づき、考える機会となるよう発達に応じた関わり方を話し合った。

保育の専門性を高める

- ・ 保護者からの相談内容に応じた関係機関との連携により、生活全般にわたる子育ての支え手として、信頼が得られるように努めた。
- ・ 保護者の声や提案を積極的に聞き、必要な改善に努めたが、園内の報告、連絡、相談の機能がうまく発揮されないこともあった。情報共有の必要範囲を見極めて、報連相の徹底により連携を図り、適切な対応を心がけた。
- ・ 小学校との連携は、5歳児担当だけでなく「子どもの育ちの連続性の大切さ」を保育士全体

で共通認識できるよう報告の機会をもった。

- ・保育の専門性をより高めるため、階層別の目標、求められる保育士像を具体化し、共通認識できた。

コロナ禍における社会的使命についての共通認識

- ・保育園の使命は、コロナ禍においても新しい生活様式を踏まえて、子どもの育ちの保障を担うことであり、ふさわしい保育のかたちを専門職として模索することとなった。
- ・コロナ禍による子どもを取り巻く環境の変化から、保育園が担うべき役割を改めて確認するための研修機会をもった。感染拡大による社会変化が家庭状況の変化と連動していることが顕著で、特に、子どもの食に大きく影響することを実感した。「食は子どもの育ちを支える」を原点に取組みの重要性を再認識して保育士、栄養士が連携し、食への関心が高まるよう取り組んだ。

【今後の取り組み状況】

***遊びの環境の充実**

身体を動かして遊ぶ心地よさや心の一番の栄養である絵本との出会いなど、今後の成長に不可欠な分野を意識し、子どもの発達、興味関心を考慮して保育を工夫し、子どもが主体的に遊びこめる環境をつくる。

***安心、安全な保育環境**

感染対策や防災についての情報を収集して、その在り方を見直し、子どもたちの「自分を守る意識や習慣」が身につくように取り組む。

***保護者へのかかわり**

保護者の思いや意見に迅速かつ適切な対応ができるよう、職員間の報告、連絡、相談を徹底し、必要に応じて関係機関と連携しながら、専門性をもって丁寧な支援をしていく。

***地域交流、地域貢献活動**

子どもたちの「地域の方に見守られる安心感」や「人とかかわる力」を育むため、新しい生活様式にふさわしい交流の仕方を創意工夫し、地域とのつながりを大切にする。また、子育て支援を担う保育園の社会的責任が果たせるよう積極的に取り組む。

***保育の質の向上**

- ・保育の基本に立ち返り、階層別に求められる保育士像を具体化し、目標達成に向けた研修体制を確立する。職員が会議の場だけでなく日常的に意見を交わすとともに、研修を通しての情報を交換し、個人の学びや気づき等を園全体の保育の質の向上につなげていく。
- ・コロナ禍での気づきをきっかけとして、視点を変えた食育への取組みを具体化します。「命のもと」を知ることや興味・探究心を引き出すことで、「子どもたちのこれからにつながる食育の根っこを育てる」ことを目標として、栄養士の指導や助言を得ながら、給食調理員と共に取り組みます。